

外国人を敵視

分断をもちこむ

差別・排外主義 絶対に許しません

日本共産党は、1922年の創立直後から朝鮮・台湾・中国からの日本軍の完全撤退、植民地解放を要求し、諸国民との真の友好のために103年間頑張ってきた政党として、排外主義の台頭を絶対に許しません。

排外主義の役割は、国民の不満や不安の矛先を、外国人など自分とは違う属性の人たちへと、そらすことにあります。

「言論の力」で「極右・排外主義」を克服する —小池晃書記局長が表明

小池晃書記局長は8月15日の終戦の日80周年の街頭演説で、「侵略戦争、植民地支配への無反省と、外国人に対する根拠なき差別はメダルの裏表だ。戦前も、外国人に向けられた差別の刃（やいば）が、やがて日本国民に向けられ、戦争に反対する人を『非国民』と弾圧し、侵略戦争と植民地支配に道を開いた」と指摘。

「日本共産党はこうした歴史の教訓に学び、差別と分断に断固として反対を貫く。多様性を大切に社会を願うみなさんと連帯し、言論の力で極右・排外主義を克服する」と決意を表明しました。

日本共産党



「終戦の日80周年」で訴える小池晃書記局長（左）と吉良よし子参院議員＝8月15日、東京・池袋駅西口（写真は「しんぶん赤旗」提供）

動画はコチラから▶



ご存じですか？ 参政党の時代錯誤な主張

8月15日「終戦の日」には
参政党88議員が靖国神社へ集団参拝



靖国神社に参拝し、記念撮影する参政党の議員ら＝15日、東京都千代田区（写真は「しんぶん赤旗」提供）

参政党の神谷代表は、参議院選挙中に、日本の侵略戦争を「大東亜戦争」と呼び、「領土的な野心で起こした戦争ではない」「自衛戦争という考え方もある」と美化・肯定。

また、当時の天皇絶対の国家体制に反対する者に死刑を科し、共産党員をはじめ、自由や平和を求めた多くの良識ある人々を弾圧した治安維持法について、「共産主義者にとっては悪法。共産主義者を取り締まるものですから」と正当化。

参政党の「新日本憲法」（構想案）は、日本を「天皇のしらす（治める）君民一体の国家」とし、戦前をよみがえらせようとするものです。

東京
民報

ご連絡・ご要望は 03-5972-1621、FAX03-5972-1590
2025年8月号外 日本共産党東京都委員会のお話を紹介します。
発行/東京民報社（港区芝1-4-9平和会館5階）1965年11月12日 第三種郵便物認可

外国人が
増えて不安？

事実はどうでしょうか

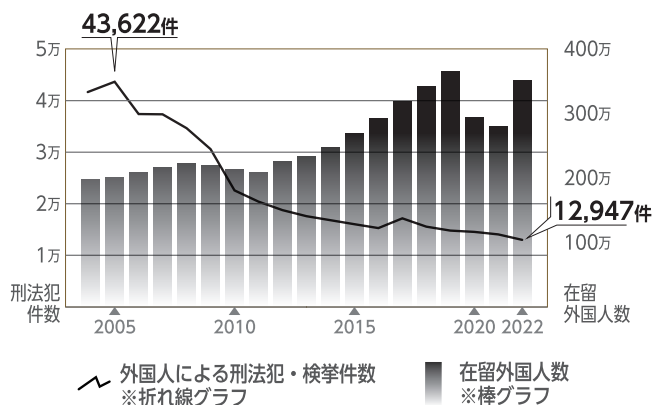
Q 治安が悪くなっている？

刑法犯は減っています

外国人による刑法犯の件数は、2005年の約4万3千件をピークにほぼ毎年減り続け、22年には3分の1にまで減っています(右のグラフ参照)。

在留外国人の人数が、同じ時期に約1.8倍になっていることを考えても、「外国人の増加で治安が悪化している」というのは、事実とは違います。

また、「罪を犯しても起訴されない」という話も、刑法犯全体の起訴率36.9%に対して、外国人は41.1%と、むしろ高いのが実態です。



Q 医療費を食いつぶしている？

外国人の医療費給付はむしろ少ないです

国民健康保険加入者のうち外国人は約4%ですが、外国人に給付されている医療費は全体の1.39%。外国人への給付はむしろ少ないのです。(下グラフ)

日本に来る外国人は、働き盛りの健康な人が多く、税金や保険料を納めることで、日本の社会保障の重要な支え手にもなっています。「食いつぶし」など、とんでもありません。

国保における外国人の状況

国民健康保険の加入者 ◀外国人は4%、97万人

総医療費 ◀外国人は1.39%、1240億円

高額医療費支給額 ◀外国人は1.21%、118億円

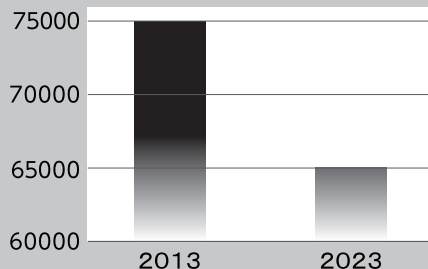
外国人の国保料納付率は現在63%。これを高めるためには経済的困難の解決、保険制度への理解の促進が必要です。

厚労省のデータより作成

Q 生活保護費が増えている？

保護費の受給はむしろ減っています

外国人の生活保護受給者数



日本に暮らす外国人は、この10年で約1.7倍に増えましたが、上のグラフの通り、生活保護の受給は減っています。また、受給者全体に占める外国人の割合も、同じ10年間で3.48%から3.25%と減っており、「外国人は保護を受けやすい」というのも事実反します。

生活保護は、憲法や法律にもとづく権利であり、外国人も含めて、誰でも使える制度でなければなりません。

外国人は、私たちとともに社会を支えている隣人です

誤解や偏見につけこみ、日本人との間に、対立をあおるのは良いことでしょうか？
生活圧迫、福祉きりすて、貧困と格差を作り出した自民党政治をぜひ変えましょう

誰もが尊厳をもって生きられる社会へ

日本共産党